

おつかれさまでした

本年度退職教職員

長年本学の教育・研究に尽力された教職員が、3月31日付で退職する。退職者を代表して、外国語学部ロシア語学科の村田真一教授と職員の大日方賀代子さんに寄稿いただいた。

■教員
《専任教員の定年退職》
佐藤朋之(文学部ドイツ文学科)、小倉博孝(同フランス文学科)、渡邊久哲(同新聞学科)、高山恵理子(総合人間科学部社会福祉学科)、島田真理恵(同看護学科)、北村喜宣(法学部地球環境法学科)、石井紀子(外国語学部英語学科)、幡谷則子(同イスパニア語学科)、村田真一(同ロシア語学科)、David H. Slater(国際教養学部国際教養学科)、安増茂樹(理工学部物質生命理工学科)、坂間弘(同機能創造理工学科)、北村垂矢子(言語教育研究センター、小柳かおる(同)

なお、4月以降、渡邊教授、北村喜宣教授、幡谷教授、Slater教授、安増教授、北村垂矢子教授、小柳教授は、特別契約教授として引き続き在任する。

《特別契約教授の契約期間満了》
高柳和雄(理工学研究科理工学専攻)、水島宏明(文学部新聞学科)、湯川嘉津美(総合人間科学部教育学科)、長谷川二ナ(外国語学部イスパニア語学科)、平野幸治(短期大学部英語科)

■職員
《専任職員の定年退職》
大日方賀代子(総務局環境整備グループ)、原田和典(同)、南保政弘(同)、佐々木睦(短期大学部事務センター)、武原真理子(監査室)



起業家マインドをもって挑戦を!

高大連携担当副学長 西澤 茂

ご卒業、ご修了、おめでとうございます。現在のビジネス環境は、1990年代初頭のインターネット革命に匹敵するほど、劇的な変化の渦中にあります。ChatGPTをはじめとするAI技術は、このわずか2〜3年で急速に発展し、さまざまな分野で活用されるようになりました。知的労働の多くがAIに代替される一方で、新たな仕事や価値創造の機会も生まれています。こうした時代の変革期において、求められるのは「起業家マインド」です。ある企業では、従業員数を半減し、削減した社員には起業を促すという決断を下しました。これは、単に組織に属して安定を求めるのではなく、自ら挑戦し、新たな価値を生み出す姿勢が重要であることを示唆しています。卒業生の皆さん、ぜひ起業家マインドを持ち、自らの手で未来を切り拓いてください。



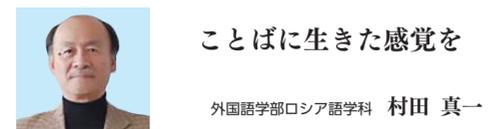
Cherish a Positive Mindset!

グローバル化推進担当副学長 森下 哲朗

Congratulations on your graduation! As you embark on the next stage of your journey, you will likely encounter many failures, setbacks, and even unfair situations. But that is simply a part of life. What truly matters is how positively you can approach these challenges, as this mindset will shape your future growth. Hiding your failures or lamenting the past will not lead you forward. It may not always be easy, but I encourage you to cherish a positive mindset. If you ever find it difficult to do so alone, remember that the friends and mentors you met at Sophia University will always be there to support you. Wishing you a bright and fulfilling future!



ご卒業(修了)おめでとうございます。4人の副学長と9人の学部長からの応援メッセージをお届けします。最新の大学の情報は、ホームページやSNSを通じて積極的に発信していきますので、今後も本学の活動や取り組みを応援してください。教職員一同、皆さんの今後の活躍を心からお祈り申し上げます。



ことばに生きた感覚を

外国語学部ロシア語学科 村田 真一

非常勤講師時代と前任校勤務が比較長かったためか、2004年に本学へ移ると、清々しさとデジャヴ感が波打ち始めました。在職期間の半分ほどは、ヨーロッパ研究所長、ロシア語学科長、外国語学部長、言語科学研究所委員長として、寛大な先生方や頼もしい事務職員のみなさんとともに、組織や制度の整備・改変を推進しました。日々彩りと充実感を与え続けてくれたのが、学生と分かち合う時間です。200人近くが巣立った卒論「必修」のロシア文化ゼミとロシア文化・文学ゼミでは、4カ国で6回の合宿を実施し、北大や東大との研究交流も重ねました。また、専門を活かした語劇指導により学部語劇祭を立ち上げ、ソフィア合気会、サッカー部、ライフセービングの顧問と体育会連合会長も務めました。年3、4回の国内外での学会発表で得た知的刺激も授業へ還元できたように思います。学生のみなさんに強く願うのは、外の世界へしっかり目を向け、ことばに生きた感覚を吹き込んでほしいということ。走り続けた21年が短かったとは言いません。「先生にはもっと動きやすい職場が向いているかも!」と虚を突かれたもの今は昔。熱心な学生や魅力的な教職員とのワークする饗宴の余韻を噛みしめ、心温まる送り出しの会を素敵に演出して下さったたくさんの方々感謝するばかりです。時間でできた人生が旅をいざないます。遥かな地平線を臨む機内のように、日常が下方へ流れ去り始め、彼方にはスターダストがほのかに揺らめいていませんか。



さわやかな非常識人に

外国語学部長 木村護郎クリストフ

大胆な発言や政策で日々、世界を驚かせている大国の指導者がいます。行き詰まった課題を解きほぐすためには、従来の常識を超えることも必要でしょう。それが、支持され期待される一つの理由にちがいません。しかし、自己中心、身内びいき、異なる意見の弾圧や蔑視、力の支配、事実と異なる主張、といった方向性が解決につながるでしょうか。問題は他のところに押し付けられ、あるいは抑え込まれ、溜まっていつか爆発する……。時代閉塞を本当に打開しようと思ったら、先例にとられない発想や行動力と共に、全く逆の方向性が必要になるはず。異なる意見にも広く耳を傾け、弱い立場に心を寄せて、公平な法の支配を守り、都合の悪い事実から顔をそむけない。上智で学んだみなさんが、そのようなさわやかな非常識人になることを願っています。



言葉を大切にしよう

文学部長 寺田 俊郎

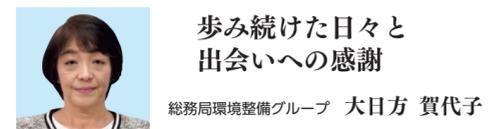
入学以来みなさんが学んできた大切なことの一つに、言葉によるコミュニケーションがあります。討論、発表など口頭での言語活動、レポート、論文など文書での言語活動を通じて、言葉を介して他者を理解し、自己を表現し、共同で新しい知を創る修練を重ねてきました。しかし、日本社会では未だに、非言語コミュニケーションが幅を利かせています。「空気を読む」「察する」「忖度」などの表現が好まれ、言葉で明確に表現することが疎まれることもあります。親しい人同士の非言語コミュニケーションは麗しいものですが、公共空間でのそれが誤謬を生んだり弱者を抑圧したりすることは「日本人ならわかるだろう」などの言説を見れば明らかです。言葉は万能ではありませんが、言葉を丁寧に使って相互理解を図ることをどこまでも、いつまでも、大切にしてください。



上智大学卒業生の誇りをもって、それぞれの未来へ。

法学部長 田頭 章一

ご卒業を心からお祝い申し上げます。学位授与式を迎えるにあたり、卒業生の皆さんはそれぞれの学生生活を振り返り、さまざまな感慨をいだいていらっしゃることでしょう。上智大学在学中は、学位記に示された学業の成果だけでなく、大学内外で得た知識や経験、信頼できる教師や友人など、かけがえのない「財産」を得られたものと思います。これらの財産は、皆さんが今後社会で活躍する際に、必ず力を与えてくれるはずで。順調な時だけでなく、なかなか前に進めない時にも、否否のような時にこそ、大学生活で得たことを思い出してください。意志があるところには、無限の可能性があると信じます。上智大学の卒業生であることを誇りとして、また「他者のために、他者とともに」の精神を忘れずに、自分自身の未来を力強く切り拓いていってください。



歩み続けた日々と出会いへの感謝

総務局環境整備グループ 大日方 賀代子

定年退職を迎えるにあたり、多くの方々との出会いに感謝申し上げますとともに、長い在職期間、皆様に支えられ、今日まで職務を続けることが出来た事を心より御礼申し上げます。社会人のスタートは23人の同期との出会いから始まりました。皆さんは、最年少で生意気な私を可愛がってくれ、導いてくれました。私が上智学院に最後まで残った一人ですが、一部の方々とは今も交流が続いています。最初の配属先は財務部でした。当時、伝票は手書きの複写式、予決算の計算書類等資料は電卓・そろばんでの計算による作成、書類は和文タイプライターで文字を一つひとつ打つなど、ほとんどが手作業の時代でした。今や技術は格段に進歩し、業務の効率化が図られ、仕事の高度化も進みましたが、当時、職場の皆さんと大騒ぎをしながら作業をし、夜遅くの残業ともなると出前の食事をとりながら歓談、また作業に戻る…手間と時間はかかりましたが、職場に一体感があり楽しかったことが今も思い出されます。その後、8つの部署を経験しました。特に、施設の管理運用関係の業務に長く携わりましたが、ここでの多くの経験は忘れがたいものとなりました。また在職中、二度の出産と育児も経験しましたが、職場の皆様温かさに支えられ、上智学院の寛容さを強く感じました。在職中、貴重な経験と学びを得る事が出来た事を深く感謝申し上げますとともに、大好きな上智学院が、これからも益々発展されます事を心から祈念いたします。



新たな道を進む皆さんへ

総合人間科学部長 酒井 朗

ご卒業、ご修了おめでとうございます。学生生活はいかがだったでしょうか。新型コロナウイルス感染症の影響で、多くの制約を受けたことと思います。そんな中でも学業に励み、多様な活動に取り組まれた皆さんに、心より敬意を表します。新たな環境でのさらなるご活躍をお祈り申し上げます。これから皆さんは、それぞれの新たな道を歩み始めます。その中で困難や悩みと直面することもあるでしょう。そんなときは、一人で抱え込まず、周囲を頼ってください。これまで自分の力で乗り越えてきた方も多いかもありませんが、誰かの支えを受けることもまた、大切な力の一つです。皆さんの未来が、希望に満ちたものとなることを心より願っています。



ソフィアンとしての絆を大切に

理工学部長 澁谷 智治

卒業・修了おめでとうございます。高い志を抱いて本学に入学した皆さんは、立派に学問を修め、それぞれの希望を胸に新たな進路を目指すことになりました。本学での学びの中で培った力は、家族や隣人を幸せにし、より良い社会の実現に大いに役立つものと信じています。しかしながら、これまでの友と別れて新たな道に踏み出すことには、大きな不安が付きまとうことも事実です。その不安は、多くの先輩ソフィアンも感じてきたことであり、だからこそ、今後の人生で生じる皆さんの不安を、社会で活躍する先輩ソフィアンがきっと受け止めてくれることでしょう。そして、皆さんが次世代ソフィアンを迎え入れるときまで、ソフィアンとしての絆を深めていって欲しいと思います。希望に満ちた未来が開けることを願っています。



いつかまた、上智大学へ!

経済学部長 竹之内 秀行

皆さんの学生生活における変化の一つは、生成AIの登場だったのではないのでしょうか。この技術は、これからの皆さんにも大きな変化をもたらすことでしょう。4月からそれぞれ新しい道を歩み始めますが、そこには新しい人々との出会いやさまざまな出来事が待っています。どんな出会いや出来事も、皆さんの一部となり、深く染み込んでいくことでしょう。そうした変化を楽しみながら、新しい環境に向き合ってみてください。そして、丸の内線の車窓から真田堀が見えたり、新宿通りを過ぎるとき、ふと思い出していただけるとうれしいです。いつの日か、また上智大学に足を運んでいただけることを心から願っています。これからの皆さんの未来が、実り豊かで充実したものであることを、心から祈っています。



希望のうちに歩む

神学部長 川中 仁

今年度修了・卒業の皆さんは、入学当初にコロナ禍の直撃を受けましたが、先の見えない状況の中で忍耐強く歩み続けることで道を切り開いてきました。これから始まる人生の歩みの中で、皆さんは数々の試練にぶつかることでしょう。あるいは、コロナ禍を遙かに超えるような試練が待ち受けているかもしれません。ですが、乗り越えることのできない試練はあきらめられません。希望のうちに歩み続けるならば、いかなる試練も必ず乗り越えることができます。折しも2025年ローマ・カトリック教会は、「希望の巡礼者」(Peregrinantes in Spem)という標語のもと、希望の特別聖年を祝い、希望のうちに歩むことへと招いています。今皆さんの前に大きく開かれた未来において、いかなる困難な状況にぶつかろうとも、決して希望を失うことなく力強く歩み続けてください。



岡田 隆 学術研究担当副学長 ありがとうございます

岡田副学長が2月22日、急逝されました。岡田副学長は2021年4月より学術研究担当副学長を務めておられ、上智大学の学術研究活動を推進する傍ら、総合人間科学部心理学科教授として学生指導にも尽力され、本学での学びを通じて新たな知を生み出し、巣立ってゆく学生の卒業・修了を心待ちにしておられました。教職員一同、ここに深く哀悼の意を表します。(計報記事は2面参照)



活かせ! グローバルマインド

総合グローバル学部長 都留 康子

ご卒業おめでとうございます。FGSで育んだグローバルマインドは、職種や場所は問いません。それぞれの未来、そして社会に活かしていってくださることを期待しています。皆さんには、大学生であることによって享受してきた特権がなくなり、いろいろなことが待ち受けていることと思います。時間的な自由がなくなり、我慢を強いられることもあるし、許しがたいと拳を振り上げたくなる時もあるでしょう。そうした時、立ち止まること、振り返ることを怖れないでください。自分を大切に、時には、頑張る自分を褒めてあげてください。自分を大切にできてこそ、他者を理解し、尊重することもできるのです。そして、人生は一生勉強です。また学びたくなったら上智に立ち寄ってください。



Remember to Share and Give Back!

国際教養学部長 Angela Yiu

Congratulations on joining the Club of Seven! If the world were a village of 100 people, only less than 7 persons have a college education. Our success is a combination of hard work and good fortune: for being born at the right place and the right time. We must be less judgmental of those who are not as fortunate and accomplished. We must not blame failure and poverty on personal responsibility alone because not everyone has the same starting line. Be generous and considerate. As a society, we must share and give back. This is how each of us will make a difference in our lifetime.